

3. 圏域別(仙台圏域)

(1)位置・地勢

当該圏域は県の中央に位置しており、仙台市、富谷市、塩竈市、多賀城市、名取市、岩沼市、大和町、大郷町、松島町、利府町、七ヶ浜町、亶理町、山元町、大衡村の6市7町1村から構成される。

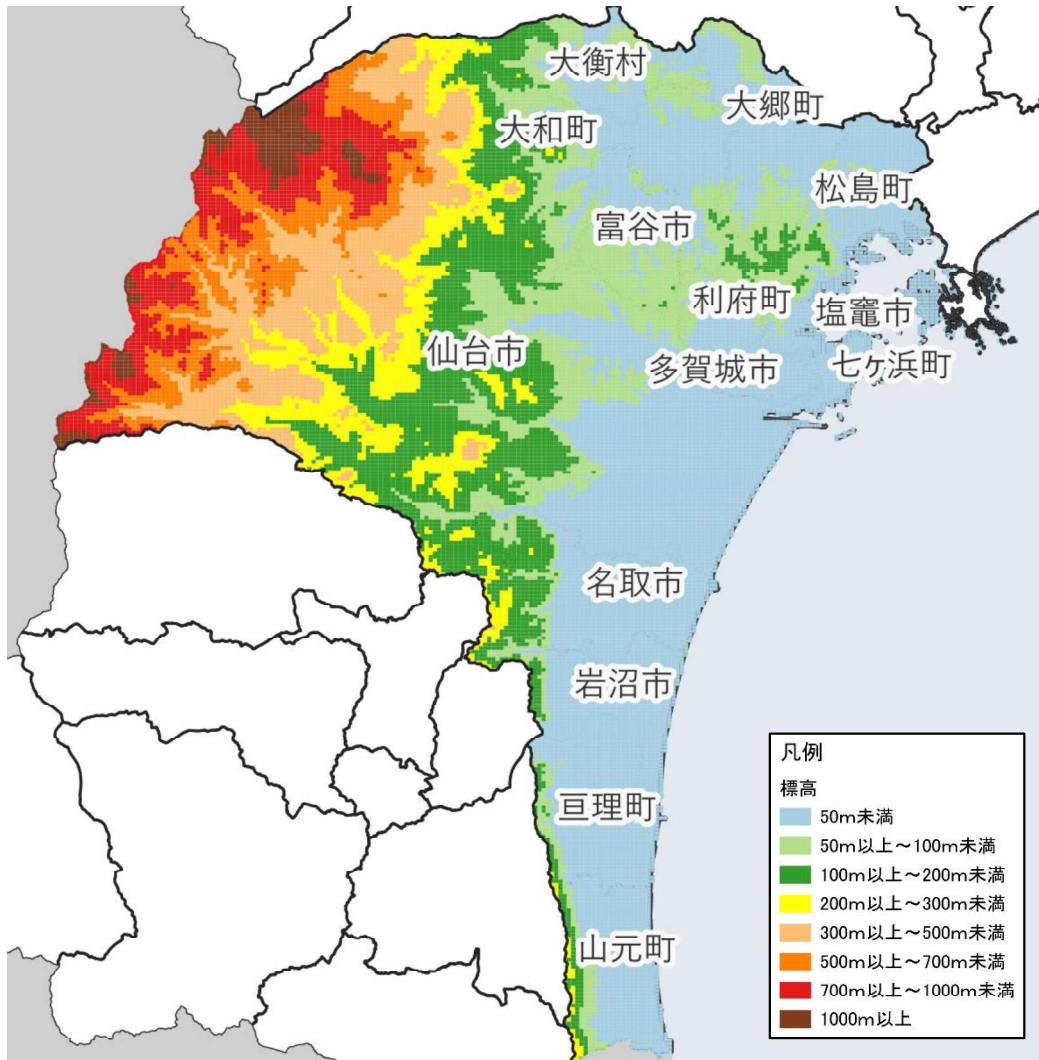


図 圏域の位置、地勢

出典：国土数値情報

(2)人口の推移等

当該圏域の人口は平成2年から令和2年まで増加傾向にあるが、令和7年以降は減少する見込みであり、令和12年には1,515千人となることが予測される。

一方、高齢化率は増加傾向にあり、令和12年には27.8%と令和2年から2.8ポイント増加する見込みである。

県内外の転入、転出者数はほぼ横ばいで推移しているが、毎年一貫して転入者数が転出者数を上回っており、社会増減数は全ての年度でプラスとなっている。

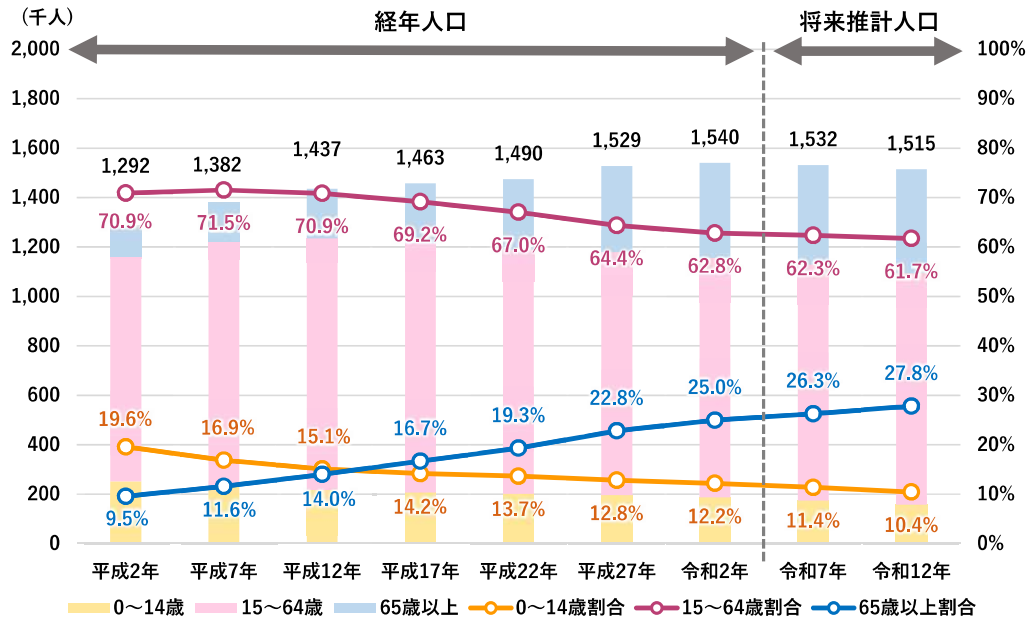


図 当該圏域の人口推移

※平成2年～平成22年では総数のみ「年齢不詳人口」を含む

出典：国勢調査 男女別人口及び年齢別割合 第6表（平成2年～令和12年）

国立社会保障・人口問題研究所

日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

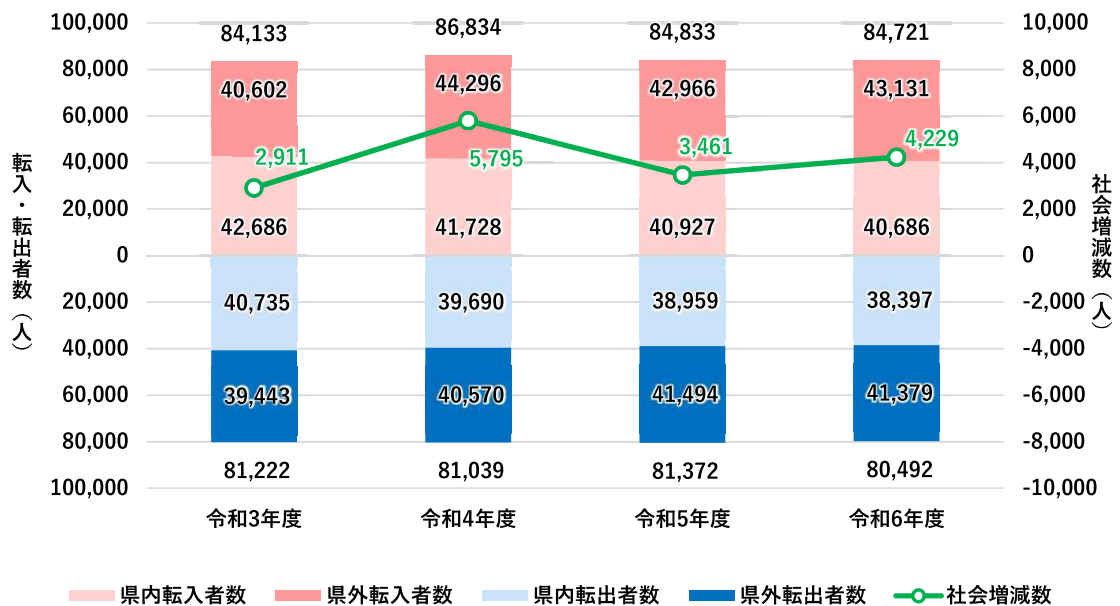


図 当該圏域の社会増減の推移

※転入・転出者数の総数には「職権記載・その他」を含む

出典：国勢調査 推計人口年報 第1表（令和3年～令和6年）

(3)流動等

1)通勤・通学流動

通勤流動は、仙台市（85.7%）で半数以上の人口が自市内で移動している。

通学流動は、仙台市（86.9%）で半数以上の人口が自市内で移動している。

近隣市町村も含めた市町村間の通勤通学移動量について、仙台市へ富谷市、多賀城市、名取市から1万人以上の移動がある。一方で、仙台市から名取市へ1万人以上、富谷市、大和町、多賀城市へ5,000人以上の移動がある。また、富谷市→大和町、塩竈市⇄多賀城市、名取市⇄岩沼市間で2,000人以上の移動がある。

表 通勤、通学流動量合計(令和2年)

移動量(通勤+通学)		単位:人																				
通勤・通学先→ 居住先←	仙台圏域														近隣市町村						その他	
	仙台市	富谷市	大和町	大郷町	大衡村	塩竈市	多賀城市	松島町	七ヶ浜町	利府町	名取市	岩沼市	巨摩町	山元町	川崎町	村田町	柴田町	角田市	大崎市	色麻町	美里町	石巻市
仙台市	481,024	5,702	5,338	450	1,457	2,972	6,304	478	344	3,554	12,001	4,117	747	241	521	404	1,374	600	2,260	93	227	1,775
富谷市	13,535	8,106	2,574	179	826	148	324	35	9	389	202	58	11	1	5	7	29	10	557	56	41	148
大和町	3,921	1,256	7,101	210	1,257	68	106	35	14	161	56	18	5	3	1	6	5	1	504	81	24	85
大郷町	696	143	417	1,694	126	128	80	109	15	162	19	7		1		1	3	2	191	6	19	37
大衡村	465	162	630	41	1,272	6	22	3	1	39	8	5		1		2	1	2	186	26	10	7
塩竈市	8,427	170	244	152	90	9,771	2,260	429	306	1,346	209	97	19	3	3	10	36	14	159	4	25	269
多賀城市	13,347	180	216	81	69	2,450	10,326	263	352	989	282	114	21	10	6	8	33	15	135	3	34	285
松島町	1,704	35	134	166	46	538	306	2,604	33	282	34	15	2	1		2	11	3	153	5	29	213
七ヶ浜町	3,573	46	53	23	21	1,228	1,492	105	2,119	278	84	42	5	1	6	1	7	3	28		6	58
利府町	7,921	345	401	184	157	1,188	1,062	266	87	5,669	180	73	13	4	4	2	31	16	158	9	24	274
名取市	16,834	71	107	17	31	107	305	17	12	104	15,101	2,795	539	155	67	148	599	361	93	8	11	95
岩沼市	5,703	22	37		9	41	130	10	9	49	2,433	8,716	887	204	25	138	757	570	35	3	13	32
巨摩町	3,371	24	29	1	3	19	92	5	4	42	1,325	1,943	6,813	804	15	106	554	657	15		6	24
山元町	756	1	2			4	13		1	7	250	365	548	2,791	4	9	100	273	3			3
川崎町	1,049	3	13	1	3	3	13	1	1	6	104	99	14	1	2,709	173	77	37	6			2
村田町	686	7	7	1	2	2	11	1	1	11	203	245	66	21	168	2,311	395	210		1		5
柴田町	3,220	8	23	4	5	13	61	3		31	1,029	1,331	491	128	85	511	8,650	1,593	18	1	1	21
角田市	1,063	8	9		1	9	24	1	2	8	357	464	438	252	24	177	917	7,884	8			6
大崎市	5,199	427	1,554	435	1,450	188	243	205	12	251	142	33	8	2	3	7	23	7	47,375	568	2,196	969
色麻町	245	58	220	20	176	8	14	2	1	8	7	1					2	1	569	1,763	19	17
美里町	1,193	59	221	135	133	80	80	67	3	55	36	6	3				7	2	3,156	26	4,980	621
石巻市	2,987	62	143	88	51	325	335	162	20	118	85	23	4	4	4	4	14	8	600	9	279	55,849
山形市	701	1	1				11				13						8					3
福島市	751	1	1			1	9				30	4					1	43				8

出典：出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表(令和2年)

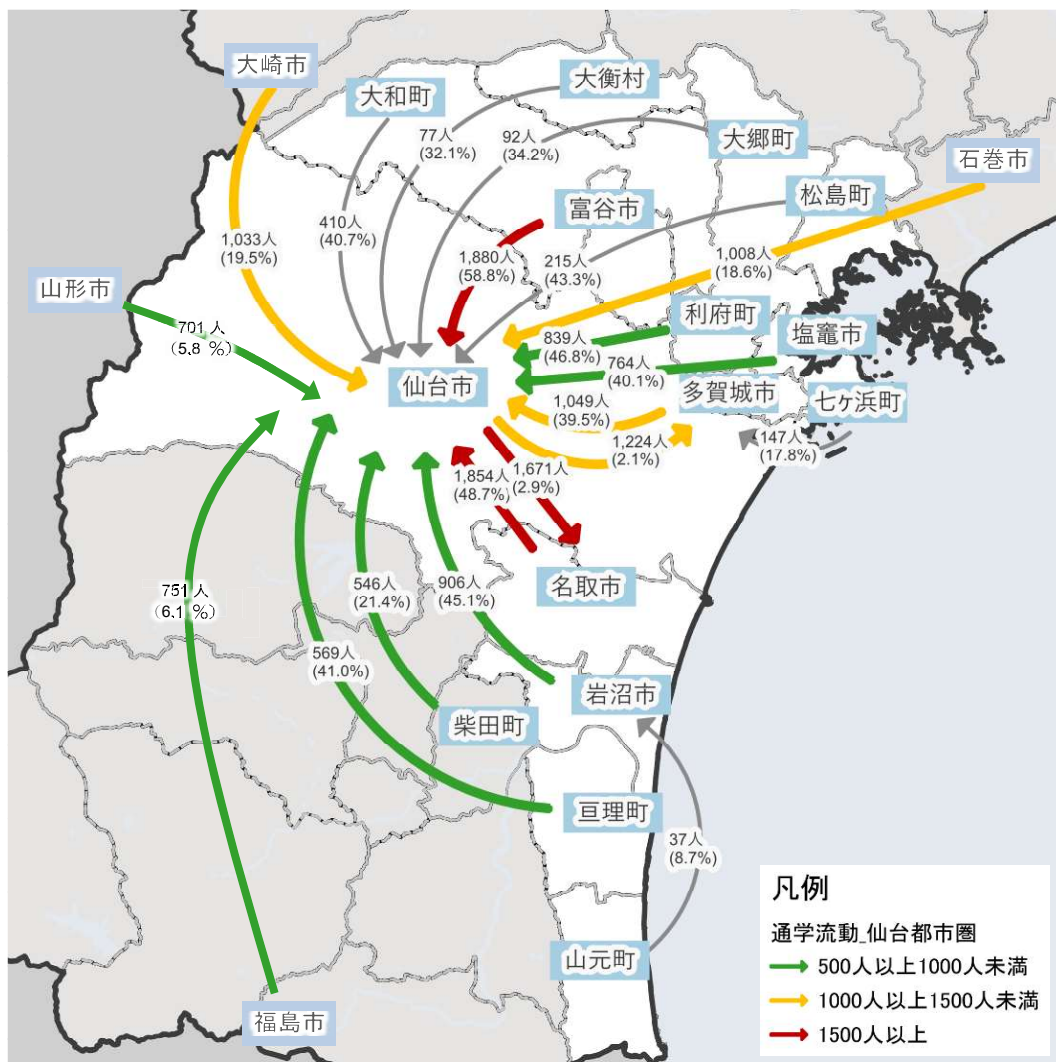


図 通学流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）
 ※500人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

2)通勤・通学時の移動手段

当該圏域の通勤、通学時の移動手段は、自家用車が47.1%と最も高く、次いで鉄道が20.5%と続いている。他の圏域に比べて公共交通の占める割合が28.8%（乗合バス等（8.3%）、鉄道（20.5%））と最も高く、比較的公共交通が利用されている特徴がある。

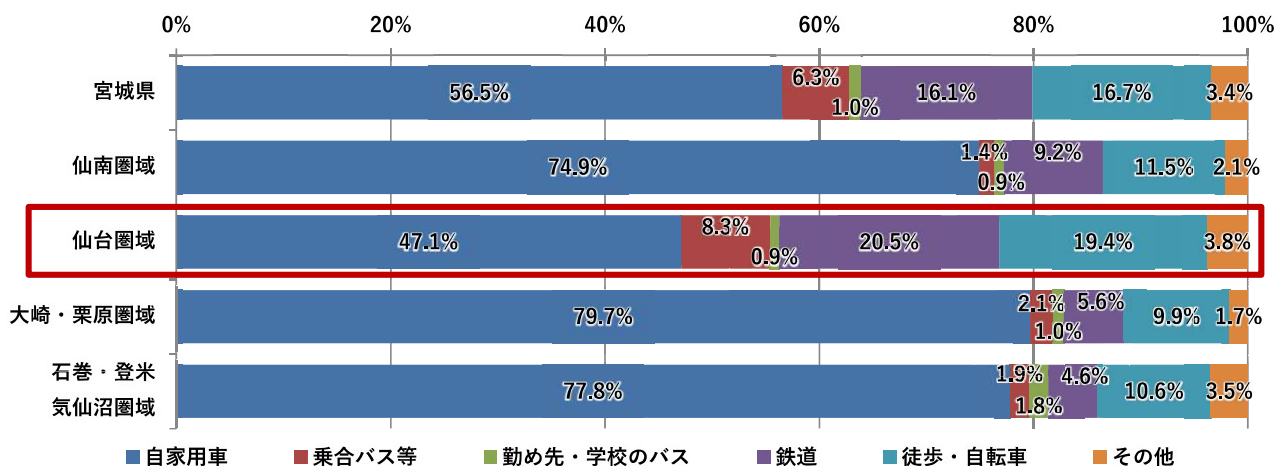


図 通勤、通学時の移動手段(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第18表（令和2年）

3) 買い物流動(最寄り品)

市町村間をまたぐ買い物流動は、仙台市、名取市、多賀城市、富谷市、塩竈市、利府町、大和町に集まる傾向がある。一方で、大郷町、亶理町は周辺の自治体に移動が分散する傾向がある。市町村間をまたぐ買い物流動の傾向が強いのは、大衡村から大和町への移動(77.6%)と川崎町から仙台市への移動(51.1%)となっている。

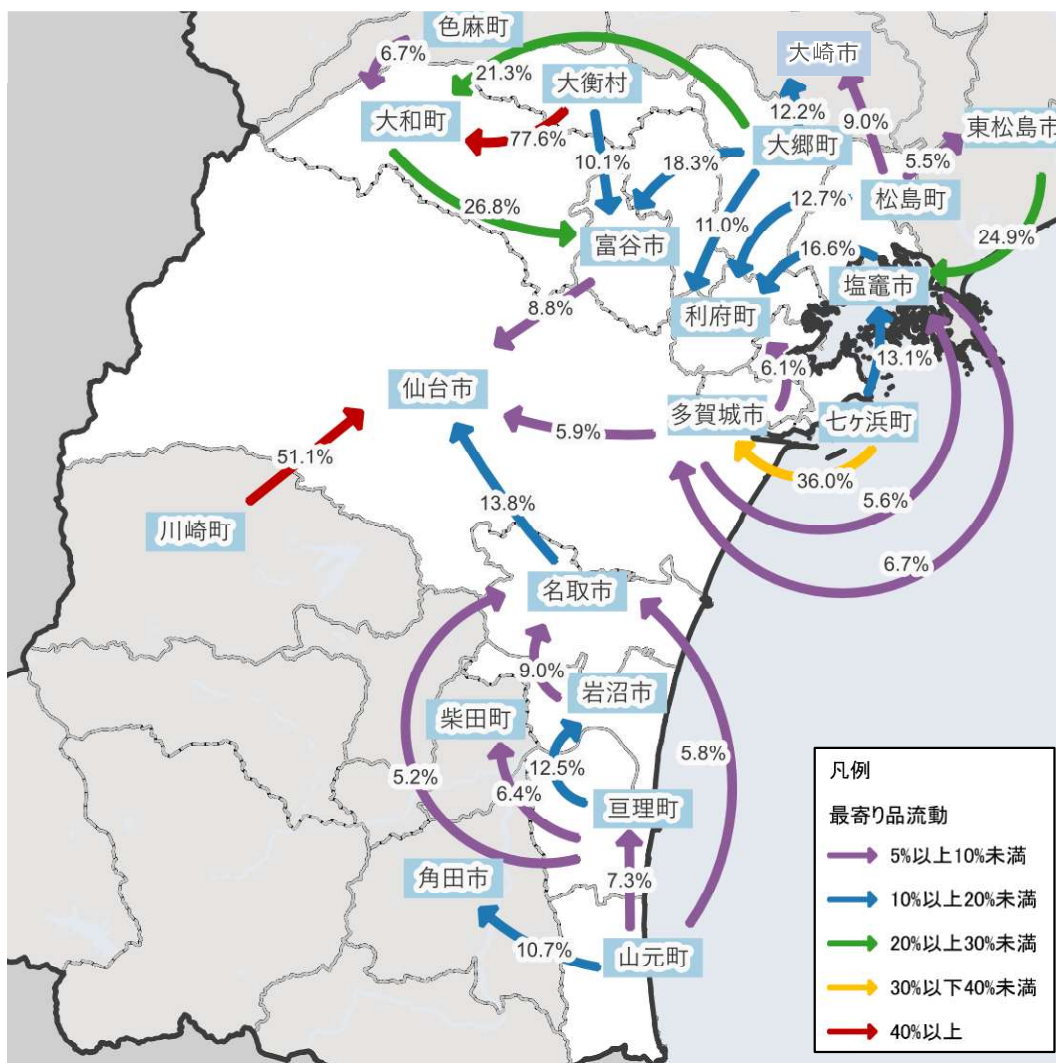


図 買い物流動(最寄り品、令和3年度)

出典：消費購買動向調査(令和3年度)

※5%未満の流動は非表示

※図中の割合は消費購買動向調査(サンプル調査)の回答者を母数としており、該当市町村の総人口を母数とするものではない点に留意

4) 観光入り込み客数

施設利用者数は、松島海岸で 300 万人近くになっており、仙台城跡、瑞鳳殿等や志波彦神社・鹽竈神社では 100 万人以上となっているほか、秋保温泉や八木山動物公園、定義如来で 50～100 万人の施設利用がみられる。

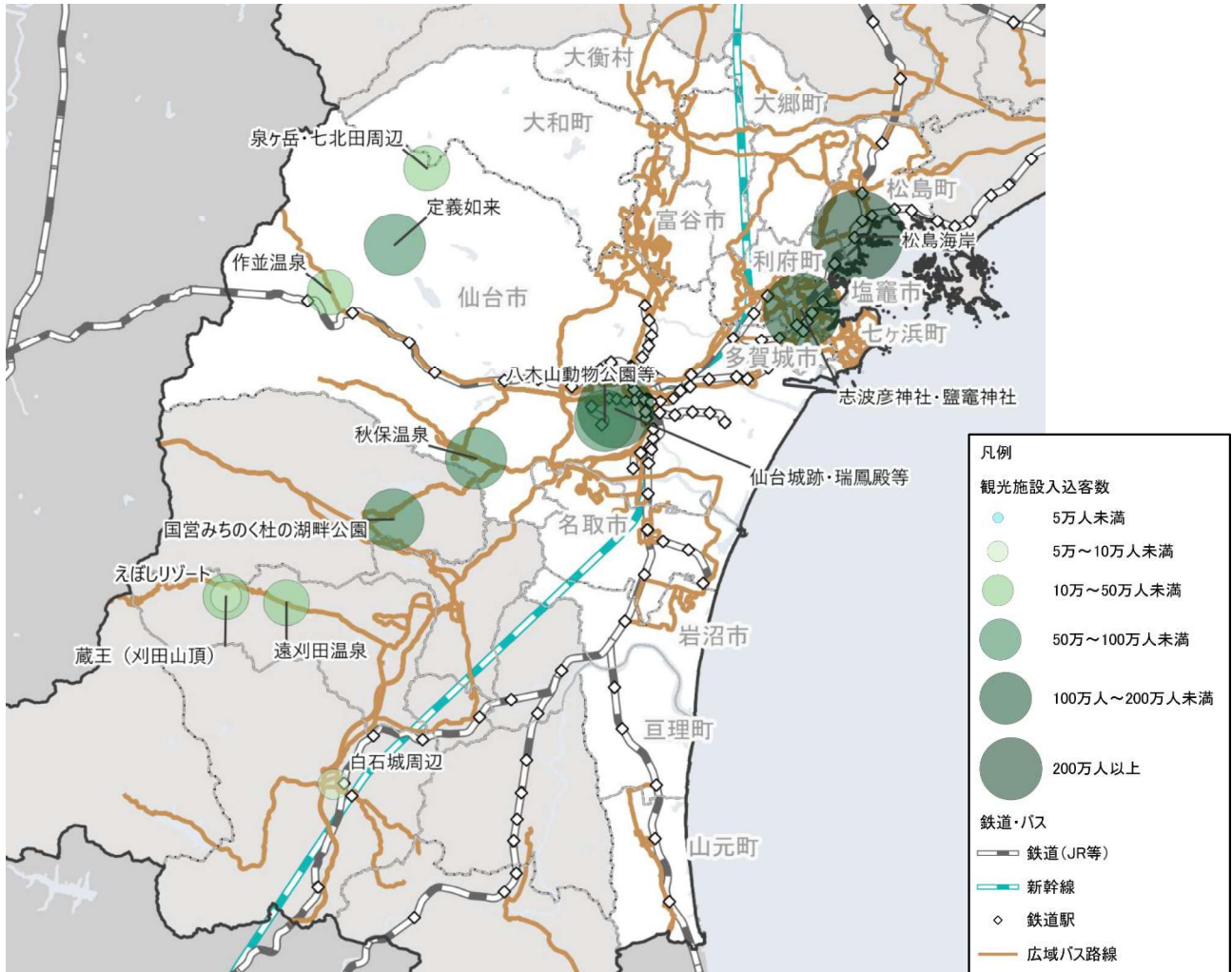


図 施設利用者数(令和 5 年)

出典：宮城県観光統計概要 表 8 (令和 5 年)

4. 圏域別(大崎・栗原圏域)

(1)位置・地勢

当該圏域は県の北側に位置しており、栗原市、大崎市、加美町、色麻町、美里町、涌谷町の2市4町から構成される。

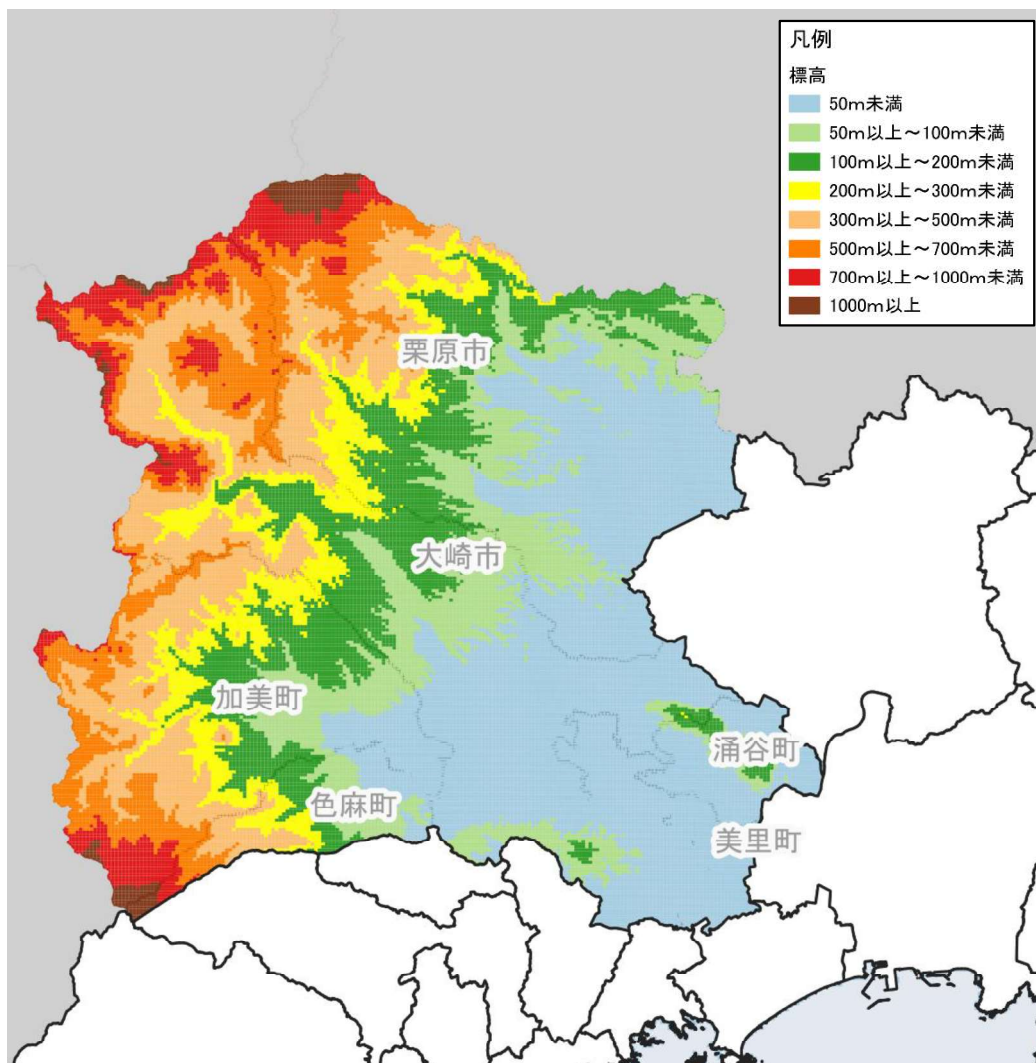


図 圏域の位置、地勢

出典：国土数値情報

(2)人口の推移等

当該圏域の人口は平成2年から令和2年まで減少傾向にある。今後も継続して減少する見込みであり、令和12年には224千人となることが予測される。

一方、高齢化率は増加傾向にあり、令和12年には39.1%と令和2年から4.5ポイント増加する見込みである。

県内外の転入、転出者数はほぼ横ばいで推移しているが、毎年一貫して転出者数が転入者数を上回っており、社会増減数は全ての年度でマイナスとなっている。

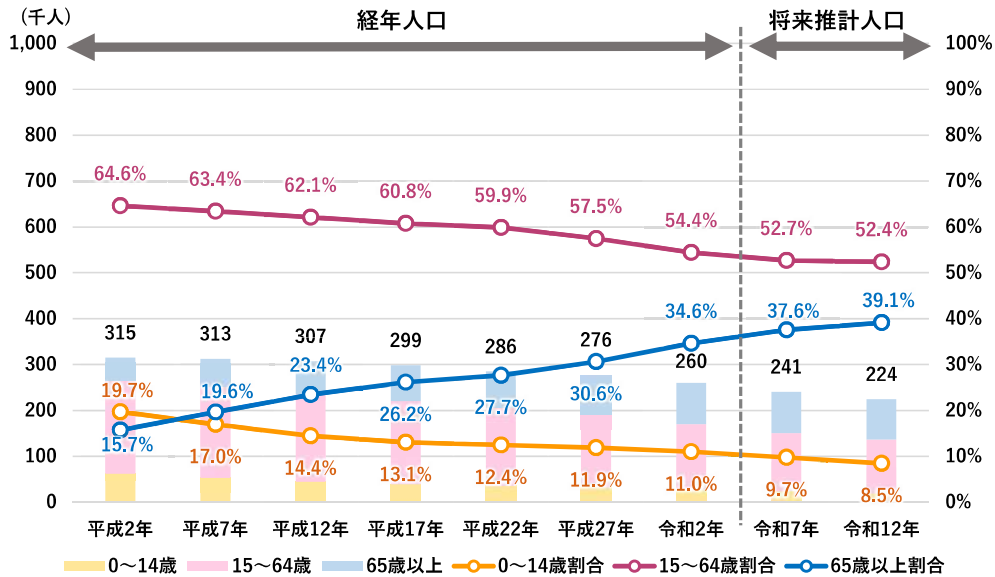


図 当該圏域の人口推移

※平成2年～平成22年では総数のみ「年齢不詳人口」を含む
 出典：国勢調査 男女別人口及び年齢別割合 第6表（平成2年～令和12年）
 国立社会保障・人口問題研究所
 日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）



図 当該圏域の社会増減の推移

※転入・転出者数の総数には「職権記載・その他」を含む
 出典：国勢調査 推計人口年報 第1表（令和3年～令和6年）

(3)流動等

1)通勤・通学流動

通勤流動は、栗原市（76.7%）、大崎市（69.5%）、加美町（62.8%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

通学流動は、栗原市（59.6%）、大崎市（59.9%）で半数以上の人口が自市内で移動している。

近隣市町村も含めた市町村間の通勤通学移動量について、大崎市から仙台市へ5,000人以上が移動している。さらには加美町、美里町へ2,000人以上、栗原市、涌谷町、大和町、大衡村へ1,000人以上が移動している。一方で大崎市へも美里町から3,000人以上、仙台市、栗原市、加美町から2,000人以上、登米市、涌谷町から1,000人以上が移動している。

表 通勤、通学流動量合計(令和2年)

移動量（通勤+通学） 単位：人

通勤・通学先一 居住地↓	大崎・栗原圏域						近隣市町村							その他			
	栗原市	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	大和町	大郷町	大衡村	石巻市	東松島市	南三陸町	登米市	仙台市	富谷市	一関市	
大崎・栗原圏域	栗原市	26,139	2,197	24	84	79	176	73	10	70	133	26	25	1,817	1,061	29	1,057
	大崎市	1,757	47,375	568	2,139	1,011	2,196	1,554	435	1,450	969	232	15	744	5,199	427	
	色麻町	13	569	1,763	612	11	19	220	20	176	17	1	1	7	245	58	
	加美町	74	2,491	577	7,813	26	64	380	34	340	45	10	3	26	552	104	
	涌谷町	75	1,282	17	34	3,994	615	89	44	50	827	114	9	354	478	19	
	美里町	199	3,156	26	84	678	4,980	221	135	133	621	171	9	209	1,193	59	
近隣市町村	大和町	18	504	81	108	9	24	7,101	210	1,257	85	18	3	10	3,921	1,256	
	大郷町	9	191	6	17	9	19	417	1,694	126	37	23		5	696	143	
	大衡村	10	186	26	41	5	10	630	41	1,272	7	2		1	465	162	
	石巻市	69	600	9	8	493	279	143	88	51	55,849	3,141	122	751	2,987	62	
	東松島市	21	307	4	7	100	123	105	104	39	6,732	8,700	19	121	1,669	38	
	南三陸町	20	26	1	1	2	1	3			174	11	5,000	425	84	3	
その他	登米市	2,361	1,273	8	17	386	200	51	30	40	1,742	131	633	31,024	1,149	38	
	仙台市	369	2,260	93	198	88	227	5,339	450	1,457	1,775	351	49	272	481,024	5,702	
	富谷市	44	557	56	70	24	41	2,574	179	826	148	44	4	29	13,535	8,106	
一関市	891	85		5	5	7	7	1	5	32	10	18	472	304	6	52,752	

出典：出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）

2)通勤・通学時の移動手段

当該圏域の通勤、通学時の移動手段は、自家用車が79.7%と最も高く、次いで徒歩・自転車が9.9%と続いている。公共交通が7.7%（乗合バス等（2.1%）、鉄道（5.6%））を占め、公共交通の分担率が最も高い仙台圏域（28.8%）と21.1ポイントの差がある。

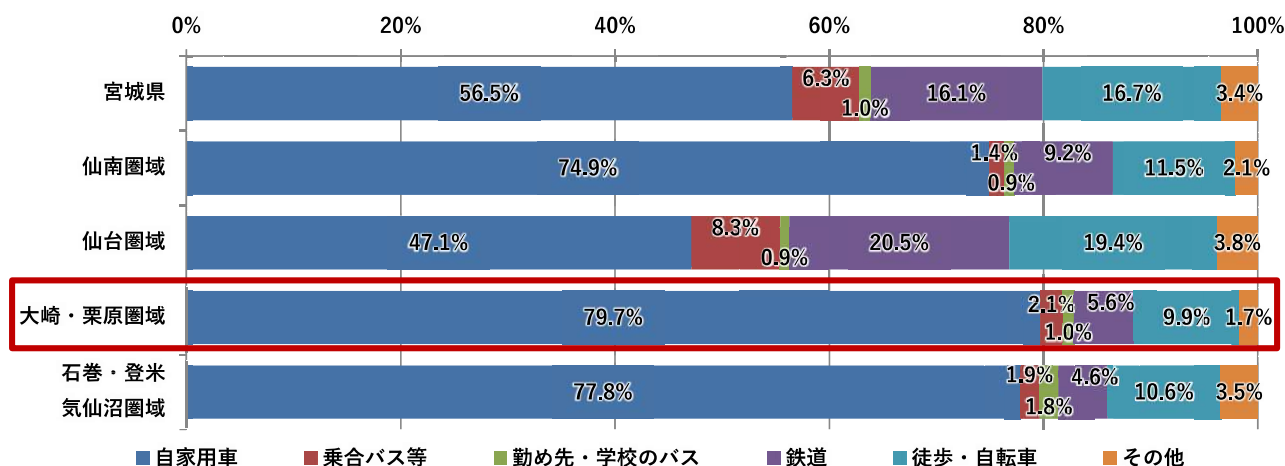


図 通勤、通学時の移動手段(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第18表（令和2年）

3) 買い物流動(最寄り品)

市町村間をまたぐ買い物流動は、大崎市に集まる傾向がある。一方で、色麻町は周辺の自治体に移動が分散する傾向がある。

市町村間をまたぐ買い物流動の傾向が強いのは、色麻町から加美町への移動(62.1%)となっている。

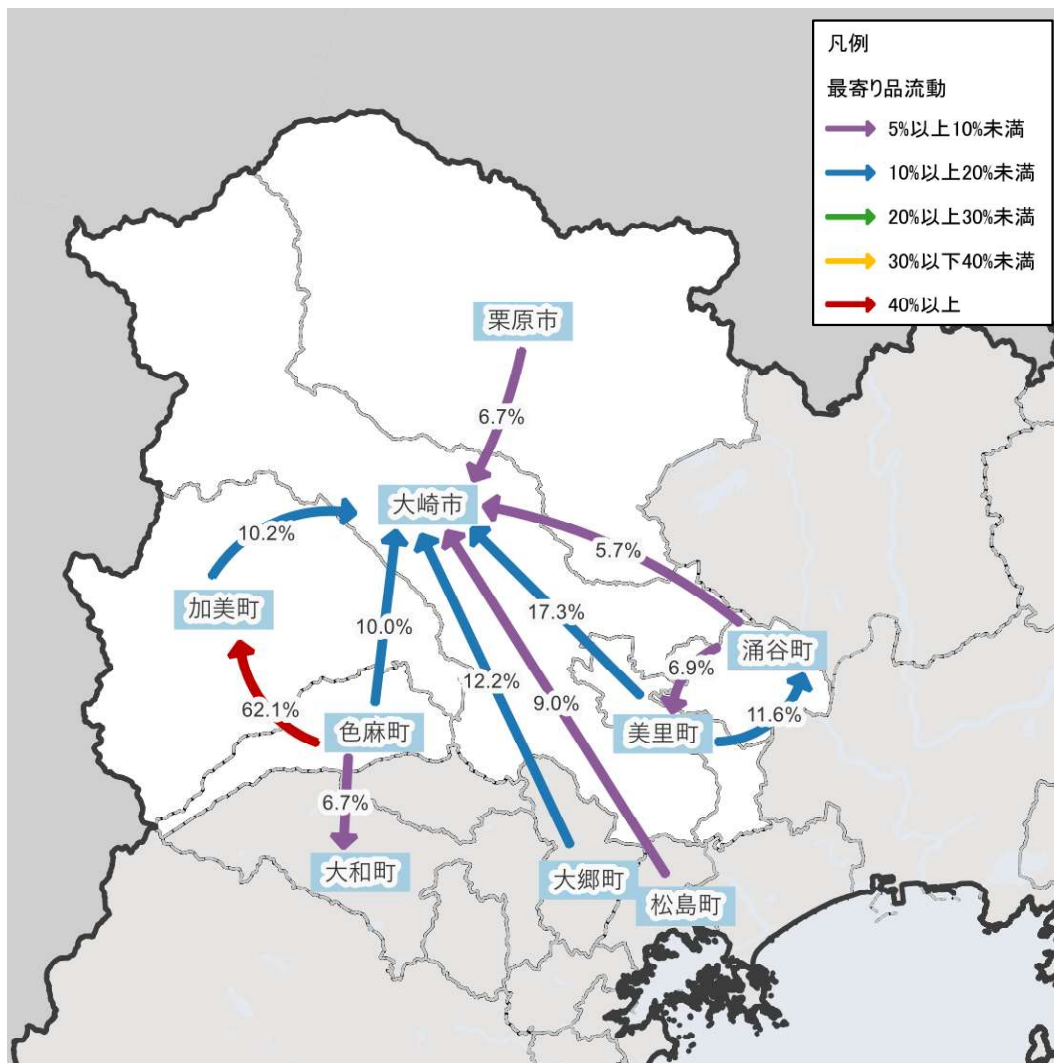


図 買い物流動(最寄り品、令和3年度)

出典：消費購買動向調査(令和3年度)

※5%未満の流動は非表示

※図中の割合は消費購買動向調査(サンプル調査)の回答者を母数としており、
該各市町村の総人口を母数とするものではない点に留意

4) 観光入り込み客数

施設利用者数は、鳴子温泉で50～100万人となっているほか、いわかがみ平（栗駒山）や中山平温泉で10～50万人の施設利用がみられる。

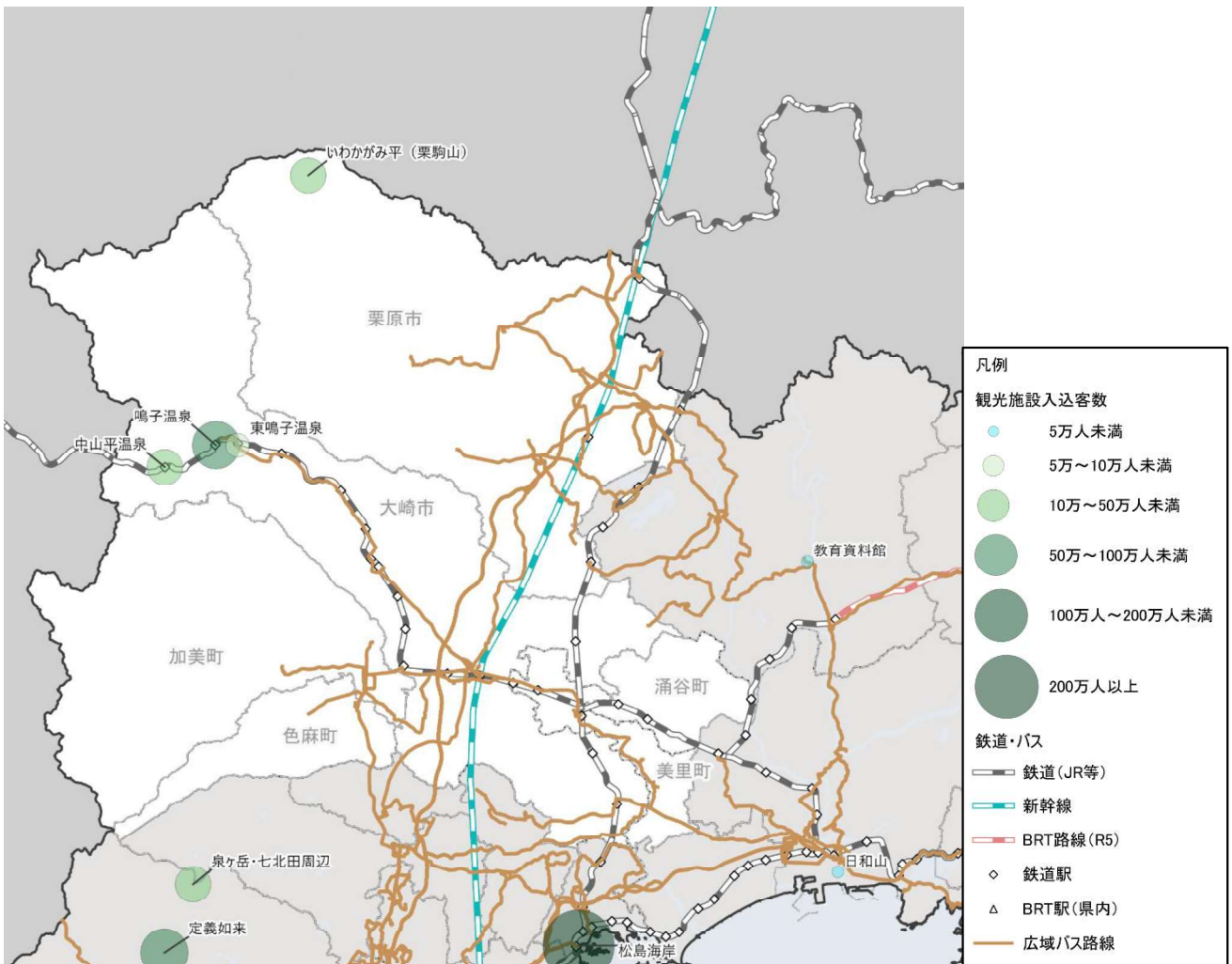


図 施設利用者数(令和5年)

出典：宮城県観光統計概要 表8 (令和5年)

5. 圏域別(石巻・登米・気仙沼圏域)

(1)位置・地勢

当該圏域は県の東側に位置しており、登米市、気仙沼市、石巻市、東松島市、南三陸町、女川町の4市2町から構成される。

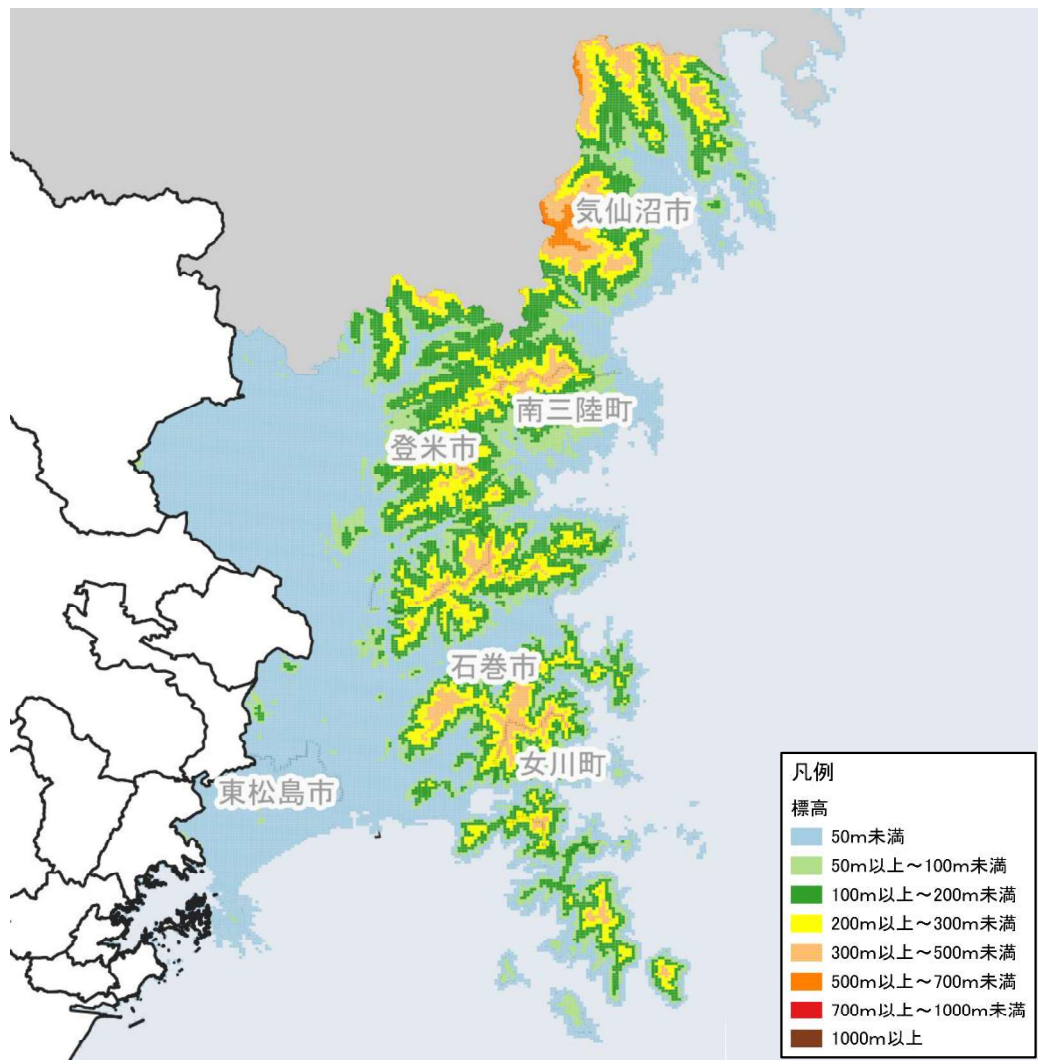


図 圏域の位置、地勢

出典：国土数値情報

(2)人口の推移等

当該圏域の人口は平成2年から令和2年まで減少傾向にある。今後も継続して減少する見込みであり、令和12年には286千人となることが予測される。

一方、高齢化率は増加傾向にあり、令和12年には38.9%と令和2年から4.2ポイント増加する見込みである。

県内外の転入、転出者数はほぼ横ばいで推移しているが、毎年一貫して転出者数が転入者数を上回っており、社会増減数は全ての年度でマイナスとなっている。

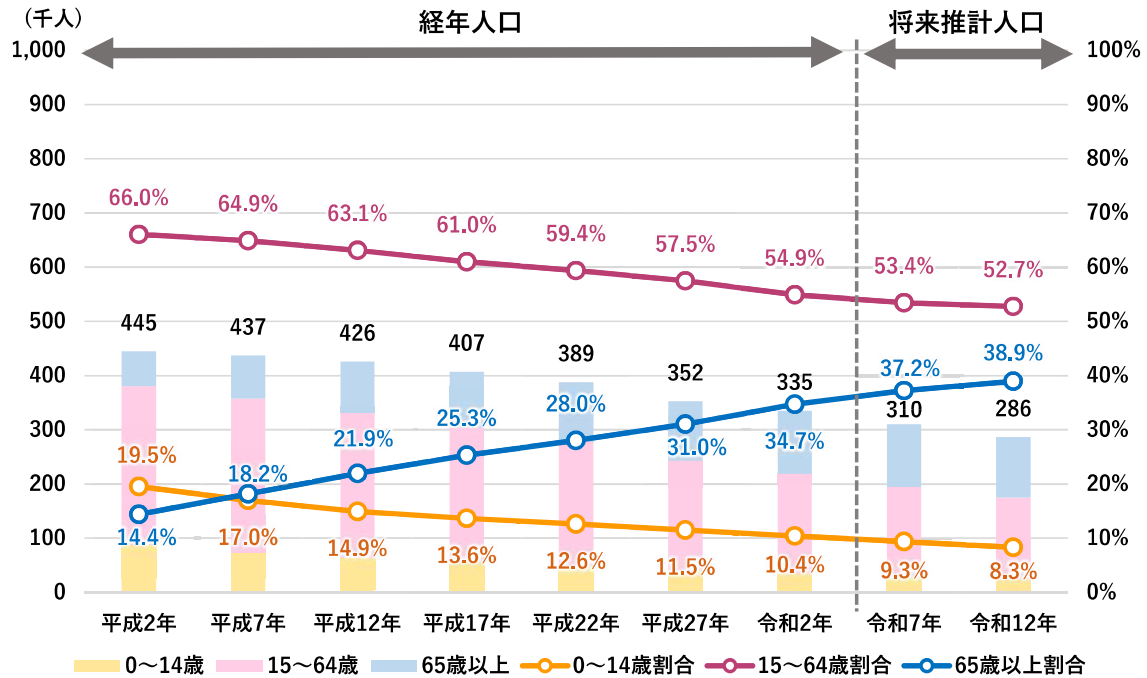


図 当該圏域の人口推移

※平成2年～平成22年では総数のみ「年齢不詳人口」を含む
 出典：国勢調査 男女別人口及び年齢別割合 第6表（平成2年～令和12年）
 国立社会保障・人口問題研究所
 日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

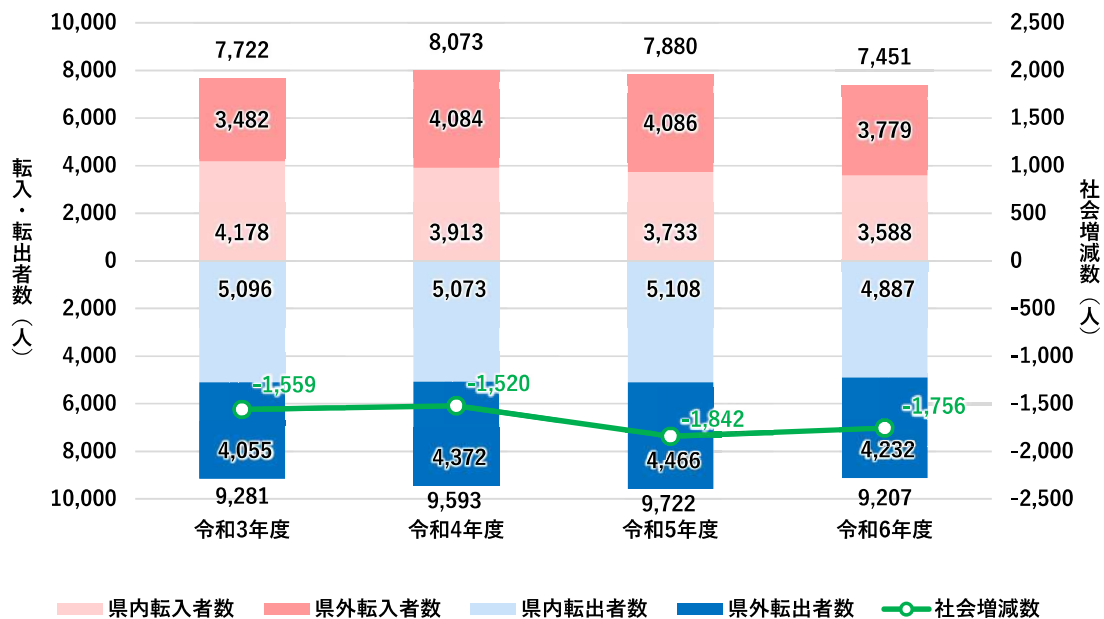


図 当該圏域の社会増減の推移

※転入・転出者数の総数には「職権記載・その他」を含む
 出典：国勢調査 推計人口年報 第1表（令和3年～令和6年）

(3)流動等

1)通勤・通学流動

通勤流動は、気仙沼市（89.0%）、石巻市（80.1%）、女川町（77.3%）、南三陸町（77.6%）、登米市（75.4%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

通学流動は、気仙沼市（89.0%）、石巻市（66.6%）、南三陸町（52.8%）、登米市（60.0%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

近隣市町村も含めた市町村間の通勤通学移動量について、東松島市から石巻市へ6,000人、仙台市へ1,000人以上の移動がある。また、石巻市から東松島市、仙台市へ3,000人程度、女川町へ2,000人程度が移動している。加えて、登米市から栗原市へ2,000人以上、石巻市、大崎市、仙台市へ1,000人以上が移動している。

表 通勤、通学流動量合計(令和2年)

移動量（通勤+通学）

単位：人

通勤・通学先→ 居住地↓	石巻・登米・気仙沼圏域						近隣市町村				その他		
	石巻市	東松島市	女川町	気仙沼市	南三陸町	登米市	涌谷町	美里町	大崎市	栗原市	仙台市	多賀城市	一関市
石巻・ 気仙沼 登米・ 圏域	石巻市	55,849	3,141	1,955	100	122	751	493	279	600	69	2,987	335
	東松島市	6,732	8,700	174	20	19	121	100	123	307	21	1,669	231
	女川町	697	38	2,673	3	2	5	1	3	4	4	57	4
	気仙沼市	91	3	9	27,488	417	192	1	1	12	14	175	8
	南三陸町	174	11	8	530	5,000	425	2	1	26	20	84	6
	登米市	1,742	131	32	263	633	31,024	386	200	1,273	2,361	1,149	167
近隣 市町村	涌谷町	827	114	17	11	9	354	3,994	615	1,282	75	478	38
	美里町	621	171	12	17	9	209	678	4,980	3,156	199	1,193	80
	大崎市	969	232	31	51	15	744	1,011	2,196	47,375	1,757	5,199	243
	栗原市	133	26	6	38	25	1,817	79	176	2,197	26,139	1,061	41
そ の 他	仙台市	1,775	351	146	244	49	272	88	227	2,260	369	481,024	6,304
	多賀城市	285	94	13	13	4	23	12	34	135	16	13,347	10,326
	一関市	32	10	1	761	18	472	5	7	85	891	304	3

出典：出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）

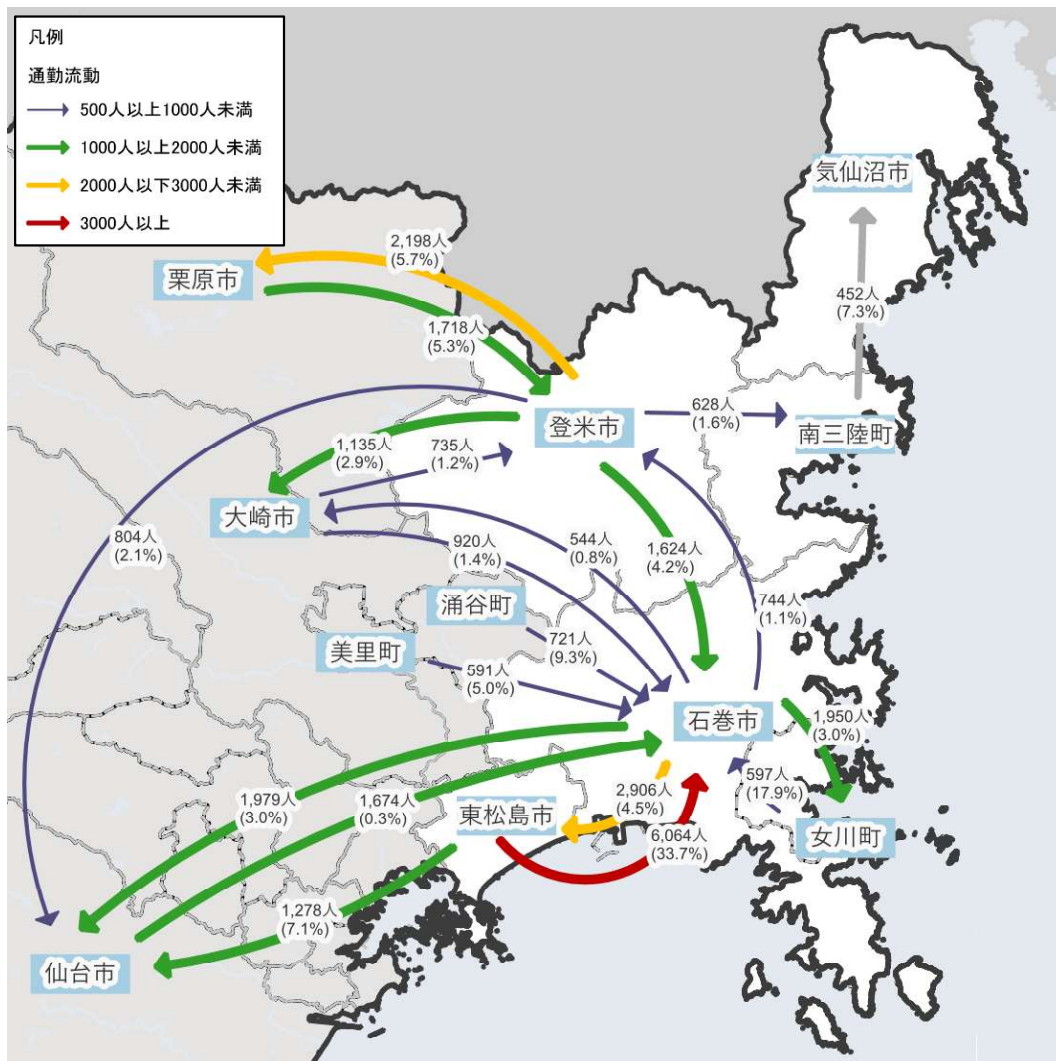


図 通勤流動(令和 2 年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第 3 表 (令和 2 年)
 ※500 人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

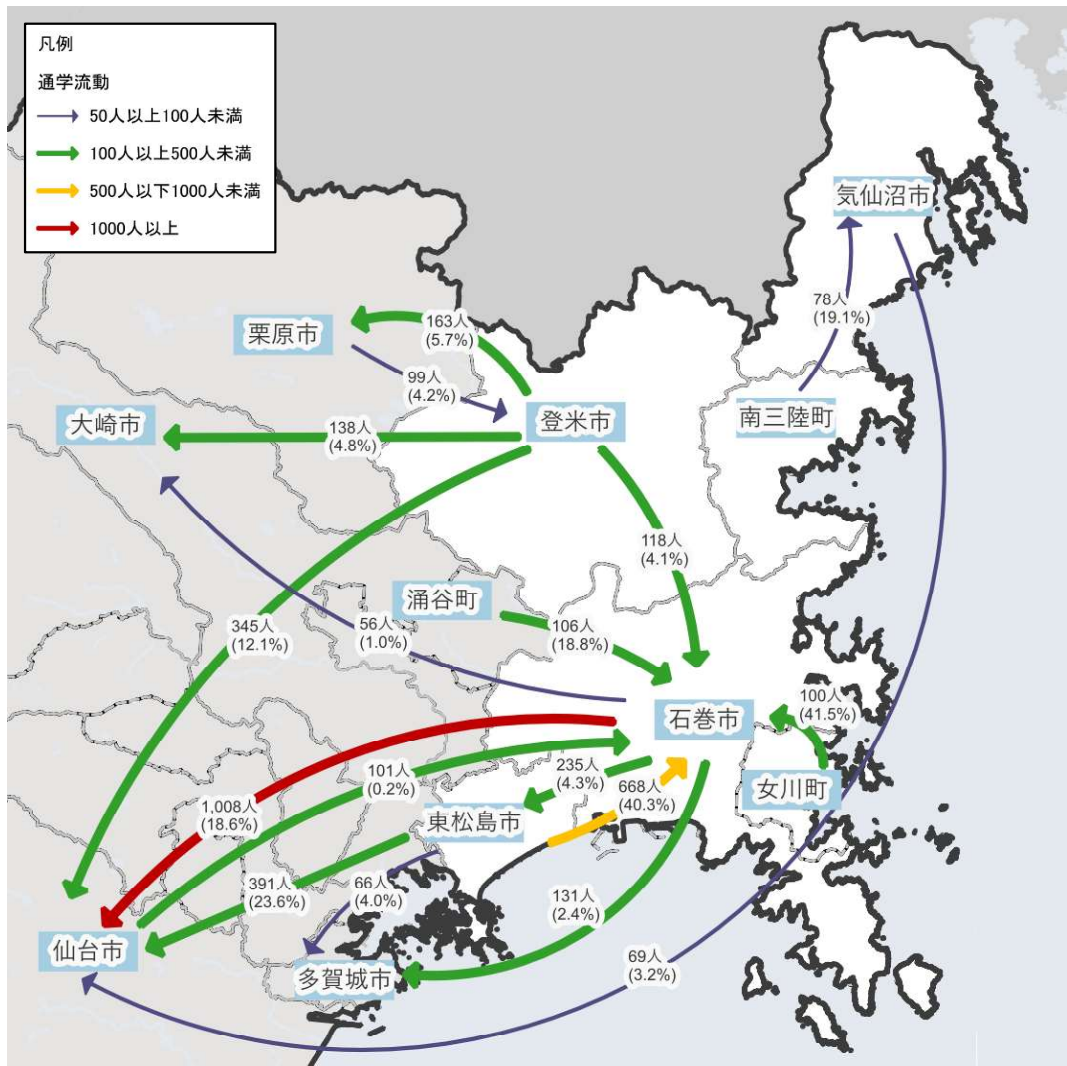


図 通学流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表(令和2年)
 ※50人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

2)通勤・通学時の移動手段

当該圏域の通勤、通学時の移動手段は、自家用車が77.8%と最も高く、次いで徒歩・自転車が10.6%と続いている。公共交通が6.5%（乗合バス等（1.9%）、鉄道（4.6%））を占め、公共交通の分担率が最も高い仙台圏域（28.8%）と22.3ポイントの差がある。

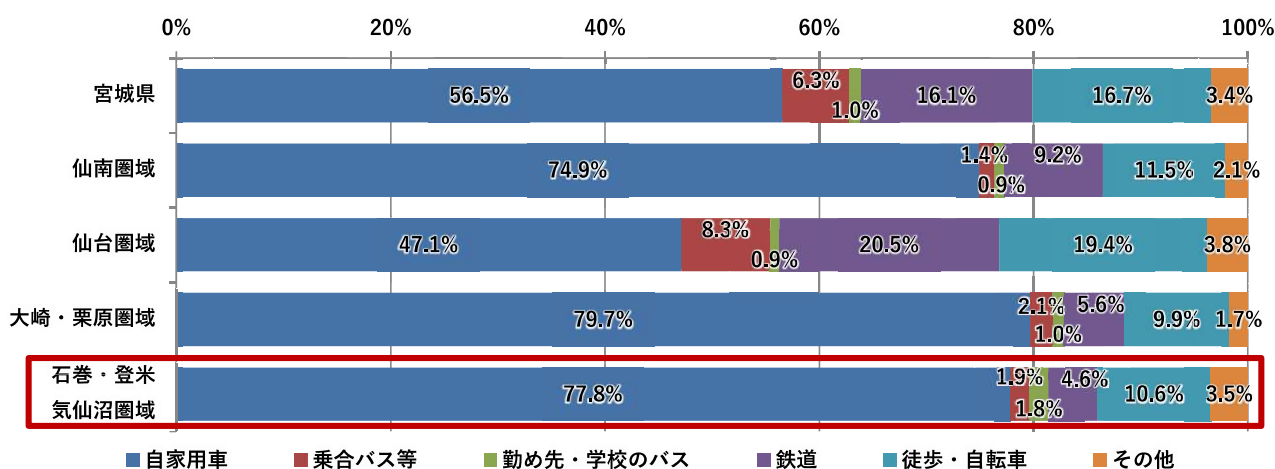


図 通勤、通学時の移動手段(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第18表（令和2年）

3) 買い物流動(最寄り品)

市町村間をまたぐ買い物流動は、石巻市に集まる傾向がある。一方で、南三陸町は周辺の自治体へ移動が分散する傾向がある。

市町村間をまたぐ買い物流動の傾向が強いのは、女川町から石巻市への移動(78.7%)となっている。



図 買い物流動(最寄り品、令和3年度)

出典：消費購買動向調査(令和3年度)

※5%未満の流動は非表示。ただし、各市町村における最大値については表示
※図中の割合は消費購買動向調査(サンプル調査)の回答者を母数としており、
該当市町村の総人口を母数とするものではない点に留意

4) 観光入り込み客数

施設利用者数は、唐桑半島や国立公園気仙沼大島、岩井崎園地で 10～50 万人の施設利用がみられる。

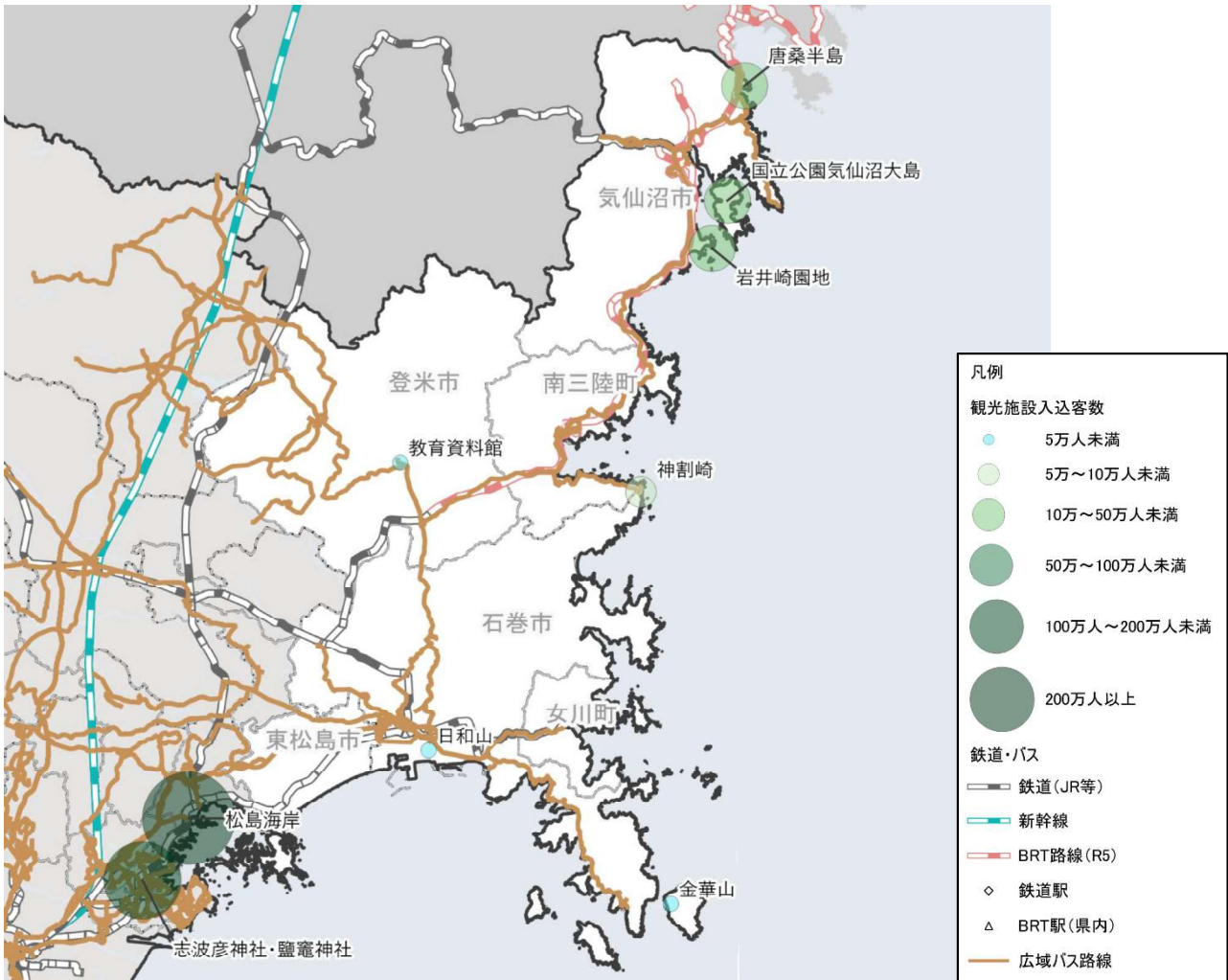


図 施設利用者数(令和 5 年)

出典：宮城県観光統計概要 表 8 (令和 5 年)